

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第220号 2009年4月6日

OCHADAI GAZETTE April, 2009



未来へと歩み続けるお茶の水女子大学 新制大学創立60周年

CONTENTS

TOPICS

新学長からのメッセージ……………	1	教員紹介……………	7
お茶の水女子大学の教育がこう変わります……………	3	伊藤さとみ先生 (大学院人間文化創成科学研究科文化科学系)	
—伝統を受け継ぐ世界屈指の女子大学—		イベントカレンダー(2009年度)……………	9
平成20年度卒業式……………	5	研究表彰等受賞者一覧(2008年度)	
学長告示		メディア報道記録(2008年度)……………	10



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

新学長からのメッセージ



新入生のみなさん

ご入学おめでとうございます

お茶の水女子大学へようこそ

「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する。」

お茶の水女子大学の教育と研究は、平成21年3月に公表された文部科学省による評価で、数少ない上位の大学に位置づけられました。

21世紀型リベラルアーツ教育、領域横断的教育研究、先端研究などを特徴とする教育と研究が高く評価されたものです。

基盤的学問分野はもとより、日本文化を国際的に位置づけ発信するプログラム、生命科学、生命情報学、コンピュータサイエンス、そして、生活者の視点を活かした社会科学など、時代の変化に対応し未来に向かって学問を先導する教育のあり方を私たちは常に追求しています。

そして、「学ぶ意欲のある」学生が、この大学で知識を習得し、思考を練磨し、さまざまな分野で指導的な役割を果たすことを心から期待し、そのための場を提供したいと考えています。

本学の歴史と伝統は、本学がつねに時代の先端にあり続けたことの証左でもあります。今、新入生と新入職員をお迎えして、本学の135年目の歴史に新たな1ページが加わります。このページが豊かな知と感動で充たされますように。

お茶の水女子大学長
羽入 佐和子



新学長からのメッセージ

お茶の水女子大学の教育がこう変わります

— 伝統を受け継ぐ世界屈指の女子大学 —

お茶の水女子大学では、平成 19 年に全国に先駆け、全学一体型の大学組織「人間文化創成科学研究科」を発足し、附属校園から大学・大学院までを見通した、21 世紀の女性の人材育成に取り組んでいます。充実した教育カリキュラムを進めるために全学教育システム改革推進本部を設置し、全学枠での新しいタイプの AO 入試を導入し、また、「文理融合リベラルアーツ」科目群がスタートしました。

全学一体となった学部教育

1. 文理融合リベラルアーツ

— 自在に (リベラル) つかえる技 (アーツ) —

「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがり現代世界の鍵となる 5 つのテーマ (生命と環境、生活世界の安全保障、色・音・香、ことばと世界、ジェンダー) にそって、講義・討論・発表・実験実習・演習を組み合わせた科目群をつくり、多面的に学び、読み・聞き・書き・語り・作るという 5 つの能力を養成します。こうした、知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面を、こころの余裕と充実感に支えられ、楽しんで生きるための英知を与えてくれます。ひとりひとりが生涯にわたって活き活きと生きていくための「お茶大リベラルアーツ」の誕生です。

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文、社会科学、理学の 3 つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ可能なのです。

文理融合リベラルアーツ <http://www.ocha.ac.jp/la/>

2. 科学的思考力と表現力を育成するキャリア教育

(現代 GP 採択「科学的思考力と表現力で築く『私の履歴書』」)

「表現力」と「科学的思考力」の強化が、本キャリア教育の両輪となります。これら 2 つの力を伸ばすために、キャリア関連の新規授業 (「キャリア・プランニング」「サイエンス・ライティング」など) を開講します。さらに、「キャリアレポート放送局」と「キャリアカフェ」が普段の授業の効果を倍増させます。

「キャリアレポート放送局」は、新しいコンセプトのネット環境であり、学生は「私の履歴書コーナー」に、さまざまな授業の成果物であるレポートを格納し、「自分史」を作り上げています。キャリアカフェを図書館 1 階に開き、学生主導で運営し、キャリアセミナーやキャリアメンターとの座談会などを企画・実施します。

これらの取組で、本事業の目標とする学生像、すなわち 1 年次から積極的に自己の未来を考察し、それに向けて行動する学生、そして卒業時には科学的思考力と表現力を持ち、それぞれの分野のリーダーとして活躍できる社会人、の実現を目指します。

キャリアレポート放送局プロジェクト

<http://sec.cf.ocha.ac.jp/cagp/>

3. 出る杭を育てる

～企業で女性が輝くための学生支援～

平成 20 年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム (学生支援 GP)」に本学のプログラム「『出る杭』を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～」が採択されました。

本プログラムは、大学入学後の早い時期から女性のライフスタイルを意識させることにより、企業への就職、さらに管理職への昇進をめざす学生への早期支援を行うものです。具体的には、① OG 就活ネットワークと②就職アドバイザーによる企業と学生のマッチングを行い、女性のキャリアパスのモデルを築いていきます。③働く力の証明となる「就活パスポート」を大学が発行し、また④企業とタイアップしてキャリアセミナーを開講して、女性が働き続ける力、さらに管理職に必要な意識と実行力を養成します。これらにより、就活する学生を直接に支援するとともに、将来、指導的な地位で活躍する女性 (「出る杭」) を社会に送り出します。

出る杭を育てる～企業で女性が輝くための学生支援～

<http://www.ocha.ac.jp/topics/h200716.html>

4. 新入生全員を対象とした「ノートパソコン貸与」と情報教育

平成 19 年度から、学部 1 年生全員に 1 年間ノートパソコンを無償貸与しています。その目的は、本学の学生が情報ツールを自ら構築し、使いこなし、「文理融合リベラルアーツ」や各自の専門領域に取り入れる手法を初歩から学ぶためのものです。まず、パソコンを個人のものとして使用すると、どのような責任が生じるか、どのようにしてソフトを取り込んで使用するか、情報をどう管理するかなどの知識と技術を習得します。

貸与パソコン相談室

<http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/index.html>

2008 年度の貸与パソコン事業 (参考)

http://www.ocha.ac.jp/topics/pc_2008.html

5. 大学院と連携した学部教育

大学院への進学やそこでの教育と連携した教育プログラムを築きます。とくに理学部では、所属する学科をこえた卒業研究指導の体制をつくり、大学院における学際的領域 (生命情報学など) の教育・研究へと展開できるカリキュラムを導入します。

6. 図書館に新たなコーナーが次々誕生

平成 19 年度 4 月にリベラルアーツコーナー、ラーニング commons を、12 月にはキャリアカフェを図書館に開設しました。図書館のロビーの机や椅子も一新し、図書館が学生のみならず、快適なコミュニケーションスペースとなるように工夫を続けています。

附属図書館 <http://www.lib.ocha.ac.jp/>

本学の先進的教育・研究プロジェクト

お茶の水女子大学は、国立大学法人の発足にあたって、「学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢が実現される場」となることを目標に掲げ、下記のようなプログラムを実施しています。高校課程から大学院博士後期課程までを見通した専門的かつ実践的教育、少人数で高密度のまとまりのある大学教育（21世紀型のカレッジ）を目指します。

1. 国際的な研究拠点の形成 <グローバル COE プログラム>

グローバル COE プログラムは、日本の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るために、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とした事業です。

「格差センシティブな人間発達科学の創成」（平成 19-23 年度） <http://ocha-gaps-gcoe.com/>

2. 大学院教育プログラム <大学院教育改革支援プログラム>

社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院博士課程、修士課程を対象として、優れた組織的体系的な教育取組に対して、文部科学省が平成 19 年度よりはじめた教育推進補助金事業です。

本学は、〈魅力ある大学院イニシアティブ〉の支援を受けた「<対話と深化>の次世代女性リーダーの育成」プログラムを発展させた下記のプログラムが採択され、国際的な活発な教育活動を展開しています。

「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」（平成 19-21 年度） <http://www.dc.ocha.ac.jp/dics-jacs/index.htm>

3. 特別教育研究経費

国立大学法人は、基盤となる運営費のほかに、それぞれの大学法人が中期目標に掲げる計画やそれに基づく改革を推進するために「特別教育研究経費」を申請することができます。大学がそれぞれ特色ある教育や研究を進めるための栄養剤といえます。お茶の水女子大学では、17 年度に 2 件、18 年度に 3 件、19 年度は 4 件、20 年度 11 件、21 年度は次の 10 件のプログラムが並行して進行します。

- a. 女性リーダー育成プログラム（教育改革、平成 18-21 年度）
- b. 開発途上国の女子教育・乳幼児保育の支援（連携融合、平成 17-21 年度）
- c. 国際協力人材育成（教育改革、平成 17-21 年度）
- d. 幼・保の発達を見通したカリキュラム開発（教育改革、平成 18-21 年度）
- e. コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応（教育改革、平成 18-21 年度）
- f. 文理融合 21 世紀型リベラルアーツの創成（教育改革、平成 19-21 年度）
- g. 女性が進出できる新しい研究分野の開拓（研究推進、平成 19-21 年度）
- h. 子どもの発達・成長過程を見通した食育の実践と教育プログラムの構築（教育改革、平成 19-21 年度）
- i. 「主婦を研究の世界に呼び戻そう」（社会人教育支援事業、平成 21 年度）
- j. 「国際規格の FD 戦略」（平成 20-21 年度）

研究者・教育者支援

1. 挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成

科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進プログラム」（平成 19～23 年度）

先端分野の優れた若手研究者が自立的な環境で、研究力、教育力、組織力を備えて、国際的な研究者として自立するように育成するプログラムです。国際公募により、平成 19 年度に 9 名の特任助教が採用されました。

挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成 <http://www.cf.ocha.ac.jp/acpro/index.html>

2. 理科教育支援者養成プログラム（「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」）

科学技術立国として我が国が発展する基盤には、理科教育の充実が必須となっています。特に現在、教室で教員を支援する実験支援員の十分な供給と、実験機材開発等で授業を支援する企業人の質的向上が求められています。本事業では教育委員会、理科学研究協議会、日本理科教育振興協会との連携で、スキル抽出、授業カリキュラム、認定制度を開発し、実施します。

理科教育支援者養成プログラム <http://www.cf.ocha.ac.jp/SEC/rikashien/index.html>

設備・事務組織

大学の教育や研究を下から支える整備の充実や事務組織の改革にも取り組んでいます。

平成 18 年度には、大学本館（講堂および総合研究棟）の増改築が完成し、10 月に落成式を行いました。平成 19 年度には、附属中学校の改築と文教育学部 1 号館の耐震工事が実施され、平成 20 年度からは、理学部 1, 2 号館、附属高校の校舎、附属小学校の体育館の耐震工事が実施されています。食堂（マルシェ）を増築し、ゆつたりとした空間になります。また、附属図書館も、学生のみなさんが共に学び、語り合える場を大きく拡げました。

お茶の水女子大学の教育がこう変わります
— 伝統を受け継ぐ世界屈指の女子大学 —

平成20年度卒業式

学長告示



今日ここに学士課程を修了されたみなさん、ご卒業おめでとうございます。

本学で学部の4年間勉強され、今日めでたくも卒業の日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げたいと存じます。今日、523名の卒業生の新たな出発に際して、中庭の桜が咲き乱れておりますけれども、桜と一緒にこの喜びを分かち合いたいと思います。みなさんをここまで支えてこられたご家族をはじめとして、また、本学を支えてくださるご来賓の方、本学に暖かいご支援をくださっていらっしゃる多くの方々へ深くお礼を申し上げたいと存じます。

先程、みなさんと一緒に本学の校歌を歌いました。みなさんは在学中に本学の校歌を何回歌われましたでしょうか。

「みがかずば 玉もかがみも なにかせん

学びの道も かくこそありけれ」

宝石は原石をみがきあげた後に、美しい姿を見せてくれます。鏡も汚れては人の本当の姿を写し出すことはできません。学問の道も、日頃の努力を重ねてこそ、画期的な発見につなが

ります。どんなに優れた才能を持っていても、人の一生を通して努力して得られるものにまさることはないと思います。私自身は、51年前になりますけど、本学に入学した時にこの校歌に出会いました。とても短い校歌ですけれども、私のその後の生き方を決めてくれた歌だと思っています。

本学は古い歴史を持っている大学でございます。しかし、みなさんがこの4年間過ごされた間にお茶の水女子大学も大きく変わってきております。

今日初めて、文教育学部にグローバル文化学環の第一期卒業生を送り出すことができたということ大変すばらしいことであると思います。どの学科に属しても広く他の学科の講義がとれ、21世紀の新しい世の中に必要とされる広い教養、広い世界観を学んでいただくことができ、グローバル文化学環の卒業生をここに送り出すことができました。これも本学が変わりつつあるということのひとつの表れであるということですが、グローバル文化学環を卒業された方々は、新しいお茶大の卒業生としていろいろな場面でご活躍されてほしいと思います。

みなさんは本学でたくさんの良き友人、良き師に巡り会えたと思います。今日は卒業式の日で、これから始まる新しい生活への期待に胸を膨らませていらっしゃるって、4年間の時を振り返るようなそんな時ではないのかもしれませんが。私も思い返してみますと、卒業式の日もう次のことをやらなきゃということを感じておりましたので、学長先生がどのようなお話をされたかということ覚えていない悪い学生でしたから、多くを語ってもみなさんは覚えてくださらないかもしれません。ただ私には、卒業後、年月を経るに従ってじわじわとよみがえってきたことがたくさんございます。これはさきほどの校歌のことが一つではございますけれども、一番私にとって本学を卒業した後でも宝となったものは友人でございます。今日この日に一緒に卒業されるみなさんにとっても、





忘れがたいクラスメイトであり、校友としてのつながりは一生続くのではないかと思います。

続いて良き師ですが、先生方が、一人ひとりを本当に良く見てくださっていたと思います。私も卒業アルバムをこの間取り出してみました。もう亡くなられた先生もいらっしゃいますが、一言一言大変すばらしいお言葉を書かせてくださって今も大事にしております。ずっと母校を離れておりましたけれども、つい最近も私の指導教官でいらっしゃった先生からお便りをいただきました。学長になっても先生からお頼りをいただける。うれしいのはこの先生が本学の前身である東京女子高等師範学校の出身であり、そして、私に教えてくださった先生であり、とても厳しい先生でございました。でも、温かく見守ってくださる、いまでもお手紙をいただく、そんな良き先生に恵まれました。

本学にとってうれしいことがございました。7月に本学の卒業生である楊逸さんの芥川賞受賞。楊逸さんは留学生として本学の文教育学部の地理学科を卒業されました。先日、楊逸さんをお招きして講演会を開催させていただき、本学からもたくさんの学生が参加しました。私は楊逸さんのバイタリティー、貧しいなかで常に見失わない、しかし世界を見ている、日本に来て自分の母国を見ている、前向きで、新しいことに挑戦していらっしゃる、その姿に大変感銘を受けました。こういう卒業生を出せたこと、みなさんにとっても良い先輩が本学から巣立っていったことをうれしく思います。また、つい最近でございますけれども、本学の卒業生である吉村美栄子さんが山形県の知事に当選されました。東北地方では最初の女性知事でございます。本学には誇れる卒業生がたくさんいらっしゃいます。

女子大学はリーダーシップを発揮する場所として非常に良い場所だと思います。それは女性同士が切磋琢磨する環境、女性同士がすべての役割をこなす環境であります。私はお茶大

から外に出たときに「お茶大はなんて厳しい大学だ」と思いました。それは、切磋琢磨ということも含めまして、先生方が一生懸命教育をしてくださったからだだと思います。教育といっても決して堅苦しい教育ではなかったとおもいます。それぞれの人が持っている力を伸ばせるような、すばらしい教育をしてくださったと感謝する次第でございます。

みなさんはこれから新しい人生のスタートに立たれることかと思えます。本学は女性のリーダーを育成することを目標に掲げております。リーダーというのは、いろいろな場でのリーダーということです。地域の活動、あるいはご自分の職場などいろいろな所で周囲を変えていっていただきたい。そのためにお茶の水女子大学で教育を受けられたと思っています。

また、私は卒業して、いろいろな場を動いてきましたけれども、行く先々で、本学の卒業生、桜蔭会の先輩方に大変お世話になってきました。この卒業生の力、これも本学にとって非常に大きな財産でございます。本学で教育を受けられたみなさんは、これから世界のどこにいらっしゃっても、本学の卒業生であることを誇りに持って、巣立って行っていただきたいと思えます。卒業生とのネットワークを大切に、これからの生活に踏み出して行ってください。どこにいてもみなさんの先輩、クラスメイトがいるということ、そしてみなさんが世の中に出て、また新しいことを学びたいということがありましたら、いつでも本学に帰ってきてください。そしてなにかありましたら、ホームカミングデイもありますので、母校にお気軽にお立ち寄りいただけますようによろしくお願いいたします。
(抜粋)

平成20年度卒業式 学長告示

教員紹介

言語学 —— 文系と理系の融合

ご自身の研究や教育観を語っていただく「教員紹介」。今回は平成20年4月に人間文化創成科学研究科文化科学系（文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化コース）に赴任された、伊藤さとみ先生にお話を伺います。



Satomi Ito
伊藤 さとみ

仕事に就くのは「知性」ですが、 仕事を続けるのは「体力」です。

ご専門は？ それを選ばれたきっかけは？

専門は言語学で、中でも中国語文法が中心です。両親とも中学校の英語の教師をしていたせい、こどもの頃から英語が好きで、言語に関心がありました。大学では言語を機械的に構造分析していく言語学的手法に触れて、とても新鮮に感じられ、2年生の頃にはこれを専門にしようと決めていました。どういふ言語を主たる研究対象にするかは人さまざまで、学部の研究室の仲間たちも卒業論文を書くにあたって、太平洋のある島の言語だとか、シベリアの少数民族の言語だとか、あるいは反対に英語などの大言語だとか、いろんな言語を対象に選んでいました。私は、中国語がこれから世界で主要な位置を占めること

になると思ったので、中国語を主たる研究対象にすることに決めました。卒業論文以来、自然言語を人工的な言語の法則で記述できないだろうか、とか、言語に普遍的に内在する仕組みを見出せないだろうか、とか、そんなことに関心をもって、研究を続けています。

ご出身は？ 本学に赴任される前は？

福井市の出身で、大学・大学院は京都大学です。在学中は台湾に留学したりしました。琉球大学に中国語学の教員として赴任し、沖縄で6年間を過ごしました。



初めての東京の印象は？ 研究環境は？

とにかく東京はスピードが速いと感じます。お茶大は琉球大と比べて、とても忙しいです。でも「忙しい」ということを、私は悪いことだとは思っていません。東京は本もサービスも研究機関も同分野の研究者も、すぐに手に入ります。物質的・人的資源に加えて交通機関にも恵まれているので、仕事がどんどん進められます。それで忙しいんだと思うんですね。一方、琉球大ではその反対です。文献一つにしても、はるばると取り寄せなければなりません。だからスピードはゆったりとなります。同分野の研究者が身近にいない分、多少異なる分野の方たちと一っしょに研究したりもしましたから、そういうおもしろさがありました。ゆったりと視野を拡げられる時と、スピードを上げて専門性を深められる時と、その両方が交互に来るような研究環境が得られれば、最高ですね。

ご趣味は「体育会系」という噂ですが

いえ、そんなことはありません。でも小さい時から水泳をやっていたので、体を動かす生活というのは、私にとっては当たり前です。仕事に就くのは「知性」だけれど、仕事を続けるのは「体力」だと思っていますから、仕事を続けるために体力作りのできるスポーツを、と思っています。今はまっているのは、沖縄

で始めたパラグライダーです。パラグライダーは、風とか障害物とか他の人の飛び方とか、要はまわりの環境に配慮することがとても大事ですね。あとむずかしいのは、スタートのタイミングです。コーチから「今だ」と言われてそれから筋肉を動かしたのでは、微妙に遅いんです。自分で最適なタイミングを見切ることですね。東京に来てから忙しくて、あまりパラグライダーに行けなくなってしまいました。この頃はジムに通う程度です。

プライベートなことを伺ってよろしいですか？

実は1月に結婚したばかりです。夫も研究者ですが、専門は全く違います。出張や論文締切など、お互いに配慮しながらやっていきたいと思っています。まだ新しい生活のパターンができていないので、かなりエネルギーを使いますね。大学での仕事にミスが増えたような気がして、両立はやはり結構大変なのかな、と思ったりします。でも新生活をスタートさせるまで、煩瑣な手続きを二人でこなしていると、学会をマネジメントする時のチームワークに似ているな、と思いました。考え方の違う人間と一緒に暮らすということは、自分の見方を変えますし、お互いのやりとりによって、とても鍛えられると思います。

うわっ！ ご家庭でも「鍛える」んですか(笑)

いえいえ、やっぱりなごみますよ(笑)。結婚してみると、仕事も結婚もおもしろいと思います。私は仕事をいっぱいやった後で、「婚活」をやったわけですが、たぶん人それぞれの時期があるのだらうと思います、標準的な婚期とかではなくて。

お茶大生へのアドバイスをお願いします

琉球大の学生は堂々としていて、男女ともに表現がストレートでしたが、それに比べて、お茶大生は慎み深いと感じます。丁寧に礼儀正しく、物言いが柔らかく、よく気配りができていると思います。もちろんそれはよいことですが、でももうちょっと堂々としてもいいかな、と思います。みんな頭がよいのですから、もっと自信をもってもよいのでは？ 億劫がらずにいろんなことにチャレンジして、人に間違いを指摘されたら柔軟に対応して、それができれば、どんどん自信がついていくと思います。そして、できれば言語学に関心をもってほしいですね。言語学は女性研究者の活躍の多い分野なんです。ことに私がやっている形式意味論は論理学の一派なのですが、国内にも国外にも優秀な女性研究者が大勢います。「女性は論理的でない」という俗説がいかにも根拠がないか、この分野にいと実感させられますよ。言語学は文系と理系が合体したような学問なので、私も学生時代からいろんな言語や、生物学・医学・数学なども勉強してきました。一つのことに集中してやってきた人に比べたら成果は少ないかもしれませんが、でもいろんな分野をあちこちかじっていると、それが思いがけないところで役立ちます。みなさんも何にでも興味をもって、いろんな勉学にチャレンジしてみてください。

教員紹介

言語学 —— 文系と理系の融合

イベントカレンダー 2009年度

4月6日	入学式 新入生オリエンテーション(6日、8日～10日)	10月1日	10月入学式 後学期授業開始
4月7日	入学式(附属小・中・高) 第1回TOEIC試験	10月14日	文教育学部・生活科学部編入学1次試験
4月9日	附属幼稚園入園式 新入生セミナー(～10日)	10月23日	AO入試(～24日)
4月13日	前学期授業開始	10月28日	AO入試合格発表
4月25日	大学院オープンキャンパス	11月4日	文教育学部・生活科学部編入学2次試験
5月30日	ホームカミングデイ 名誉教授懇談会	11月7日	徽音祭(～8日)
5月31日	開学記念日	11月10日	奨学金授与式
7月1日	理学部編入学試験(～2日)	11月12日	文教育学部・生活科学部編入学試験合格発表
7月9日	理学部編入学試験合格発表	11月20日	永年勤続表彰式
7月19日	オープンキャンパス(～20日)	11月28日	文教育学部推薦入学・帰国子女入試(～29日)
7月23日	前学期末試験(～29日) 補講日(～31日)	理学部・生活科学部推薦入学・帰国子女入試	推薦入学・帰国子女入試合格発表
8月1日	夏期休業開始	12月10日	推薦入学・帰国子女入試合格発表
8月13日	夏季一斉休業(～17日)	12月24日	冬期休業開始
8月20日	博士前期課程8月入試(～21日)	1月4日	新年賀詞交歓会
8月31日	博士前期課程合格発表	1月7日	冬期休業終了
9月3日	博士後期課程9月入試(～4日)	1月16日	大学入試センター試験(～17日)
9月6日	夏期休業終了	1月23日	大学入試センター試験(追試)(～24日)
9月7日	前学期末試験・補講日(～11日)	2月1日	後学期末試験・補講日(1日～2日、4日～8日)
9月11日	博士後期課程合格発表	2月3日	博士前期課程2月入試(～4日)
9月12日	夏期休業開始	2月9日	第2回TOEIC試験
9月30日	9月卒業式 夏期休業終了	2月10日	博士前期課程合格発表
		2月25日	学部入試(前期)(～26日)
		3月3日	博士後期課程3月入試(～5日)
		3月10日	学部入試(前期)合格発表 全学送別会
		3月11日	博士後期課程合格発表
		3月12日	学部入試(後期)
		3月15日	附属幼稚園卒園式
		3月16日	附属小学校卒業式
		3月17日	附属中学校卒業式
		3月18日	附属高等学校卒業式
		3月19日	永年勤続表彰式
		3月20日	学部入試(後期)合格発表
		3月23日	卒業式

研究表彰等受賞者一覧 2008年度

- ・芥川賞 楊逸さん(文教育学部地理学科卒業)
- ・第8回 日本進化学会賞/木村資生記念学術賞(木村賞)
郷通子前学長
- ・文化庁長官表彰 深井晃子名誉博士
- ・全米家族関係学会国際セッション Jan Trost Award
牧野カツコ名誉教授
- ・平成20年度教育者表彰(文部科学大臣表彰)
沖山義光主幹教諭(附属高等学校)
- ・平成20年度文部科学大臣優秀教員表彰
田中京子教諭(附属高等学校)
- ・AACED-MEDIA 2008 刑部育子准教授
- ・日本物理学会若手奨励賞 郡宏特任助教
- ・日本人の中国語作文コンクール受賞
宮浦由衣さん(文教育学部)
- ・スミセイ女性研究者支援受賞
足立綾子さん(大学院人間文化創成科学研究科)
田崎直美さん(大学院人間文化創成科学研究科研究院)
- ・第43回日本生活習慣病学会 会長賞受賞
戸塚久美子さん(大学院人間文化創成科学研究科)
伊部陽子さん(生活科学部教育研究協力員)
- ・IEEE Tokyo Young Researchers Workshop スポンサー賞
堀辺宏美さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・フードサイエンスフォーラム 最優秀賞
佐藤友紀さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・第15回日本未病システム学会 学術総会優秀演題賞
岸本良美さん(大学院人間文化創成科学研究科)
菅原歩美さん(大学院人間文化創成科学研究科)
戸塚久美子さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・エンタテインメントコンピューティング2008 審査員特別賞
今泉仁美さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・IEEE Visualization 最優秀ポスター候補賞
古矢志帆さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・電子情報通信学会 MVE 研究会 2008MVE 賞
森 麻紀さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・コスメトロジー研究助成 採択
英美由紀さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・第8回武生国際作曲ワークショップ 作曲賞
塚本瑛子さん(文教育学部)
- ・第2回博報『ことばと文化・教育』研究助成優秀賞
星野祐子さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・第21回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 特別賞
文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育学コース
- ・アメリカ大使館賞 受賞
板橋晶子さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・第3回林大記念論文賞
横山紀子さん(大学院人間文化創成科学研究科)
- ・第21回内科学会奨励賞
児玉暁さん(大学院人間文化創成科学研究科研究院)

メディア報道記録 2008年度(抜粋)

10

—2008年—

- 4月16日 日経産業新聞
09就職最前線
- 4月18日 毎日新聞
キャンパス
お茶の水女子大「キャリアカフェ」
図書館入館者数が4割増す
- 4月26日 毎日新聞
油の種類で体脂肪に差
近藤和雄教授
- 5月26日 日本経済新聞
教育投資拡大は不可欠
郷通子前学長
- 7月15日 読売新聞
教育ルネサンス 理科再興
支援員活躍、実験おもしろく
- 7月16日～
芥川賞 受賞
楊逸さん(卒業生)
- 7月17日 上毛新聞
子どもの笑顔 活力に
郡司明子附属小学校教諭
- 7月23日～25日 読売新聞
健康プラス 運動で糖尿病予防
曾根博仁准教授
- 8月4日 朝日新聞
「窓」がんばれ、女子大
- 8月5日 朝日新聞
放射性物質 添加禁じる品目を定めよ
古田悦子講師
- 8月19日 日刊工業新聞
製品誕生に感無量
室伏きみ子教授
- 8月21日 朝日新聞
女子大同窓会が縁結び
- 9月13日 読売新聞
理科好き女子増やせ
理系の先輩がアドバイス
- 9月15日 朝日新聞
存在意義 探る女子大
「リーダーシップ育つ」5大学がシンポ

- 10月5日 朝日新聞
ブランドランキング
本学のイメージは「まじめ」「上品な」
- 10月6日 産経新聞
料理は感性を豊かにする
小西雅子さん(卒業生)
- 10月6日 朝日新聞
学内に保育室・9時5時勤務を徹底
支援した5人に成果
- 10月12日 朝日新聞
体重の医学② あぶない「やせた高血圧」
曾根博仁准教授
- 10月16日 朝日新聞
少子化問題 子どもにも住みにくい社会
本田和子名誉教授
- 10月18日 読売新聞
OGら招きキャリア講義
企業に学生情報開示
- 10月20日 朝日新聞
国立大学法人などの業務
「順調」が9割以上
- 10月21日 読売新聞
第58回全国小・中学校作文コンクール
鈴木美智子(附属中学校)
- 10月27日 朝日新聞
学術研究 女性の力を生かす大学に
- 11月2日 朝日新聞
国際科学会議
副会長に東大黒田玲子氏(卒業生)
- 11月5日 産経新聞
未来のカルテ 遺伝子診断は今
千代豪昭教授
- 11月13日 読売新聞
おいしさの知恵 継承を
畑江敬子名誉教授
- 11月17日 朝日新聞
「国の予算配分が問題」9割
国立大学長アンケート 削減で経営に苦慮
- 11月28日 読売新聞、日刊工業新聞
お茶の水女子大学学長に羽入佐和子氏
- 12月26日 西日本新聞
おやっとなさあ 高等教育に投資増を
郷通子前学長

—2009年—

- 1月5日 日本教育新聞
子どもの質問を褒めよう
郷通子前学長
- 1月16日 東京新聞
開放か防犯か キャンパス対策大学苦悩
- 1月20日 日刊工業新聞
3女子大、産学連携で連合
お茶大など 革新創出を研究
- 1月23日 毎日新聞
お茶の水女子大「いずみナーサリー」
学内で24人の幼児を保育
- 1月26日
山形県知事に吉村美栄子氏(卒業生)が当選
- 1月28日 読売新聞
アフガンの女子教育支援
- 2月25日 読売/日経/東京
紀子さま「名誉特別研究員」に
- 3月2日 朝日新聞
研究人 がん移転予測 糖鎖に注目
相川京子准教授
- 3月3日 日本経済新聞
「知のサイクル」通じ理数系育成
「横浜市立サイエンス高校」助言役の科学者
和田昭允前理事



わくわくモーモースクール
in お茶の水女子大学
(2009年3月6日)

お茶の水女子大学学报 第220号

▽発行日：2009年4月6日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail : info@cc.ocha.ac.jp

URL : <http://www.ocha.ac.jp/>